

# 与論地域地力増進対策指針

平成16年11月25日策定

## 1. 地力増進地域の土壌の性質

本地域は奄美群島の最南端に位置する。

土壌は琉球石灰岩を母材とする暗赤色土、粘板岩を母材とする細粒赤色土および固結火成岩を母材とする細粒灰色台地土に分類される。暗赤色土および細粒赤色土の腐植含量は少なく、粘土含量は多く、有効態リン酸は不足している。なお、作土は浅く、下層土はち密で、有効水分は少なく、透水性は不良である。また、暗赤色土は石灰が豊富で、pHが高い。細粒黄色土は塩基状態が悪く、石灰等が欠乏し、酸性化しやすい。一方、細粒灰色台地土の腐植含量は少なく、粘土含量は多く、肥沃度・養分の豊肥はいずれも中庸である。

## 2. 土壌の性質の改善目標

### (1) 暗赤色土の普通畑（さとうきび）

ア 腐植含量は3パーセント以上とする

イ 土壌のpHは6.0から6.5までとする。

ウ 加里飽和度は2から5パーセントとする。

エ 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラムから50ミリグラムとする。

オ 石灰飽和度は70パーセントから75パーセントまで、塩基飽和度は80パーセントから95パーセントまでとする。

カ 石灰含量と苦土含量の当量比は4から8までとする。

キ 主要根群域の有効水分は15パーセント以上とする。

ク 有効根群域の最小透水係数は1秒間当たり $10^{-4}$ センチメートル以上とする。

ケ 有効根群域のち密度は山中式硬度計で23ミリメートル以下とする。

### (2) 細粒赤色土の野菜畑（サトイモ）

ア 腐植含量は3パーセント以上とする

イ 土壌のpHは5.5から6.5までとする。

ウ 加里飽和度は2から5パーセントとする。

エ 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラムから50ミリグラムとする。

オ 石灰飽和度は60パーセントから65パーセントまで、塩基飽和度は72パーセントから85パーセントまでとする。

カ 石灰含量と苦土含量の当量比は4から8までとする。

キ 主要根群域の有効水分は15パーセント以上とする。

ク 有効根群域の最小透水係数は1秒間当たり $10^{-4}$ センチメートル以上とする。

ケ 有効根群域のち密度は山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

### (3) 細粒灰色台地土の花き畑（ユリ）

ア 腐植含量は3パーセント以上とする

イ 土壌のpHは5.5から6.5までとする。

ウ 加里飽和度は2から5パーセントとする。

エ 有効態リン酸含量は乾土100グラム当たり10ミリグラムから50ミリグラムとする。

- オ 石灰飽和度は55パーセントから65パーセントまで、塩基飽和度は67パーセントから85パーセントまでとする。
- カ 石灰含量と苦土含量の当量比は4から8までとする。
- キ 主要根群域の有効水分は15パーセント以上とする。
- ク 有効根群域の最小透水係数は1秒間当たり $10^{-4}$ センチメートル以上とする。
- ケ 有効根群域のち密度は山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

3. 土壌の性質を改善するための資材の施用に関する事項および耕耘整地その他地力の増進に必要な営農に関する事項

- (1) リン酸質資材は土壌のpHおよび塩基バランスに応じて選択する。
- (2) 加里飽和度が基準値以上の場合は加里施肥量を削減する。
- (3) 石灰資材の施用は石灰および苦土の当量比を勘案して施用量を決定する。
- (4) 有機物は作付け約2週間前に施用する。
- (5) 緑肥作物を鋤込む場合は十分な腐熟期間をとる。
- (6) サブソイラー、パンブレーカー、プラウ等によって耕盤層の破碎を行う。

4. その他地力の増進を図るために必要な事項

- (1) 土壌のち密化および表土の流出を防止するため、なるべく裸地期間を少なくし、緑肥作物等を導入する。